

私のちいさなよっしゃ！

1. 関心を向けると気づける。考えてまた気づける。やってみてまた気づける。そうやって近づける賞	
投稿者	S 様
プロフィール	派遣 2020.1月入職 →→ 2020.11月 現部署へ異動
内容	<p>1人のご利用者に部署異動後から現在に至るまで、食事摂取量の安定をめざして試行錯誤しながら関わりをさせていただいている。ご本人は食べる意欲はあるものの、調整をしてもつけ辛そうな義歯により、口を開けることにも支障があることから、1口の摂取量が少なく、介助をしても時間がかかり疲れたり、満腹になってしまっていた。そこで、本来とは逆になりますが、食事をする時には義歯を外し、口腔ケア後に装着するという方法を試し、本人が疲れなスピードで介助することで全量摂取を継続する事ができるようになりました。</p> <p>今回のことで、よく観察し、少しでも思いを話してもらっただけで変わることがあると教えてもらった気持ちです。今後も継続し、小さなことでも何かが変わり、ご利用者の生活を支える介護ができることを目標として職務に取り組みたいと思えました。</p>
評	<p>部署異動後、ご利用者全体を把握する所から始め、個々について細かな観察ができ、思いを話して貰える関係性を築けるまでになられたことは素晴らしい。</p> <p>テンダーヒル御所の方針でもある「考える介護」にも取り込まれ、アセスメントから試行錯誤し、逆転の柔軟な発想で利用者の思いに答えることができた実感できたことは、今後の取り組みにも期待できる。利用者のことを思いケアすることで、私たちが人として、専門職として育てていただいていると感じられるよっしゃ！でした。</p>
2. 認知症の症状を抑えることを考えるだけではなく、その原因を探ってみよう賞	
投稿者	T 様
プロフィール	2012年5月 入職 みのり館介護主任
内容	<p>異食行為のあるご利用者が入居され、着用しているオムツ、手に取った日用品等を何でも食べてしまわれる状態でした。夜間の見守りが少なくなる時間帯のオムツ外しを解消したいと、職員皆で観察を行い、衣類を検討しました。驚くほどの腕力で切り裂かれることもありましたが、変更をかさね破る行為ができずにオムツ外しという行為には効果がありました。</p> <p>しかし、それだけでは対処療法にすぎないので、根本的に「なぜ、異食がおこるのか」を考えました。認知症だからではありませんが、ではなぜ認知症だと手に取ったものを全てを異食する行動を取り始めたのかと考えたところ、依存症や異食症を助長するのは、ストレスが大きく関わっているケースが多いということに着目しました。ご本人が何に対してストレスを感じるのか、継続して観察する必要がありますが、まずは愛情を持って接すること、笑顔で接すること、必ず話しかけることを心がけました。一緒に過ごしているとき、隣で大きな口をあけて、いびきをかきながら眠っておられる姿を見ると、そこにはストレスは無いように感じ、その姿を見ると「よっしゃ！」とほほえんでしまいます。ここ数ヶ月異食行為が無いことも、ひとまずの「よっしゃ！」です。</p>
評	<p>異食行為を止める対処療法的な対応にのみ目がいきやすく、さらには、夜間の見守り体制や、本人の体調や安全のためという理由でミトン等の身体拘束に至ることになりがちですが、そのことがさらなるストレスになることも十分に考えておられる。対処で終わるのではなく、「なぜ異食行為がおこるのか」その方が出しておられるサインが異食であると考え、ストレス解消に目を向けられたことは素晴らしい。意欲的に資格取得や継続して研修に参加されていることのあらわれだと感じます。</p> <p>専門職として学んだ知識と、現場での実際のケアとが結びつき、こんなにも変化がでていると実感できることは素晴らしい体験だと思えます。この仕事は、何が正解なのか、本当にこれで良かったのか実感として持ちにくいとされていますが、学び、実践したことが、「良かったよ。」とご利用者から大きな「◎」をいただいているような、嬉しい気持ちにさせていただける、この仕事の大きなやりがいを感じられるすてきなよっしゃ！でした。</p>

あの人の&アイデアのちいさなよっしゃ！

1. 率直にやってくれちゃう人と、素直にありがとうと言える人たちでつくる明るい職場賞	
あの人投稿者	F様→→ N様
あの人投稿者	K様→→ N様

プロフィール	福田様2003年8月介護職デイスービス 駒井様2019年3月介護職デイスービス 中川様2009年6月グループホーム看護職
内容	わかば館の女子更衣室入り口に素敵なカーテンが設置されました。 服を着替えている時に、ドアが開いてあわてることもなくなりナイスアイデア！です。 そして、取り付けしてくれたカーテンには、頑張ろうとおもうような素敵な言葉も添えてくださっていました。 その言葉をみるたびに頑張ろうという気持ちになり、ありがとうと感謝の気持ちが沸いてきました。
評	施設的环境、共用箇所となると、不便なまま受け入れたり、変えられないと思ひこんでいたりでそのままになっていくことも多いと思います。自分が不便に思うことはみんなも感じていると周囲を思う気持ちや、必要だと思ふことを躊躇無く労力を惜しまず実行できることはすばらしい。 不安な気持ちや、不便さが解消されただけでも快適な職場環境になりますが、さらに、みんなの意欲が高まる、素敵な言葉が添えられてあったのは、一緒に働くみんなへ思ひをこめてされたことだと感じます。 そんな素敵なことをさりげなく人知れずできるという心配り、やさしさが伝わり、複数の方からあの人によっしやとして投函されたことにも頷けます。大変な仕事ですが、みんなでお互いに、相手のことを考え、嬉しくなる、安心できる、感謝したくなる、頑張れる関係性が持てる職場でありたいと思います。

あの人たちのちいさなよっしや！

1. 打てば響く「あうん」の呼吸。チームワークでご利用者を笑顔にできる賞	
あの人たち	本館 特養2階チーム
2名からの内容	「年末に2階フロアで忘年会やらない？」と副主任の誘いかけで、みんなが協力的にアイデアをもちより、準備や練習にはげみ、「漫才」「影絵でこれなあに」「女装でダンス」「ギター演奏」などなど、軽快な音楽にみんなでおどり、ご利用者だけでなく、職員も楽しめ、コロナを忘れストレス発散になった。 最近、日記を始められたご利用者が、「昨日の忘年会は楽しかった」と記されているのをみて大変嬉しく思いました。
評	利用者の笑顔と職員のはじけた様子が写真からも伝わります。インスタグラムをみてくださっているご家族も楽しんでくださっていると思います。コロナ自粛に疲れて、歌うこと、楽しむことさえ許されないような雰囲気になりがちですが、そんなことは吹き飛ばしてしまえと言わんばかりの企画と思ひがよく伝わります。 忘年会もですが、小さなよっしや！プロジェクトでも、フロアの取り組みや、職員同士の協力関係、誰かの背中を押す言葉かけ、お互いを認め合うよっしや！カードが2階スタッフから毎回、多数寄せられます。利用者の生活の質を向上させたいと思ひや、一緒に働くスタッフの良いところを見つけようとする関係性、フロア内、施設の雰囲気を良くしていこうと思ひが凄く伝わってきます。そんなチームワークのすばらしさ「チーム力」に対して、2階フロアみんなによっしや！です。
総評	今月にご利用者への専門的なケアに関するものと、チームの結束や繋がりを感じさせるものと、大きく2種類の「よっしや」が選ばれました。 全てに共通するのは、相手への関心と思ひやりが根底にあつて、だからこそなんとかしたいと思ひ、そして実行する。 その心の動きはまさに福祉の仕事の原点であり、それこそ福祉専門職としての誇りであると思ひます。